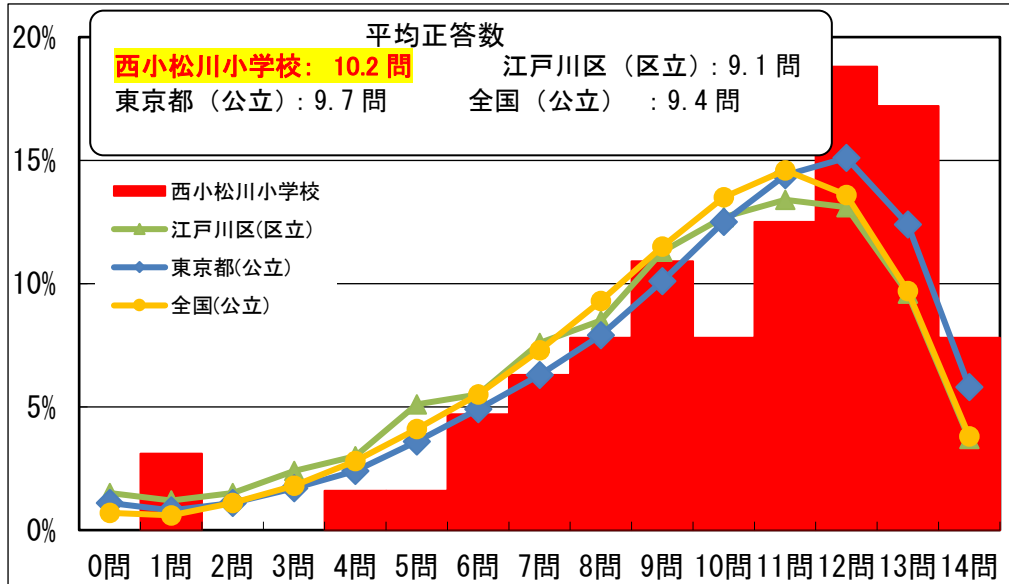


# 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】 西小松川小学校

## 正答数分布



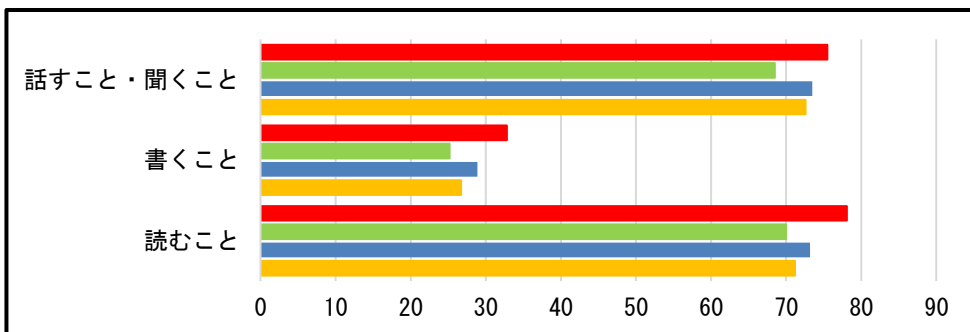
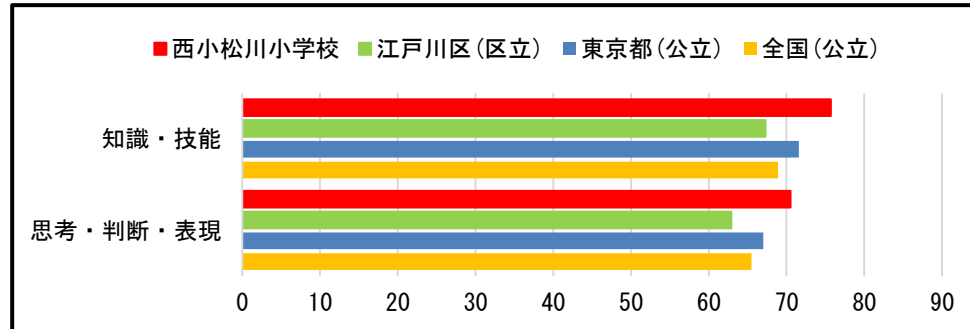
### <四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

国語	A層 12~14 問	B層 10~11 問	C層 8~9 問	D層 0~7 問
<b>西小松川小学校</b>	<b>43.8</b>	<b>20.3</b>	<b>18.7</b>	<b>17.2</b>
江戸川区 (区立)	26.4	26.1	19.8	27.7
東京都 (公立)	33.3	26.9	18.0	21.8
全国 (公立)	27.1	28.1	20.8	24.0

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合を示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

## 「領域別」の結果



### 【平均正答率の差】

<b>西小松川小学校</b>	<b>73%</b>
江戸川区 (区立)	65%
東京都 (公立)	69%
全国 (公立)	67.2%
都との差	<b>4ポイント</b>

%

### 【分析結果と授業改善に向けて】

○国語科における成果・課題

国語では、「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率 75.5 と全国平均値 (71.2) より大きく上回っていた。「書くこと」の領域の平均正答率 32.8 と低い数値となった。A層 25%、D層 17.2%と学力差が生じている。

○授業改善

国語の授業では、「書くこと」の力を高めるために、発問を工夫し自分の考えを書かせる機会を増やし、文章の書き方(始め・中・終わり)を明確におさえて、相手や目的に応じた文章を書けるようにしていく。